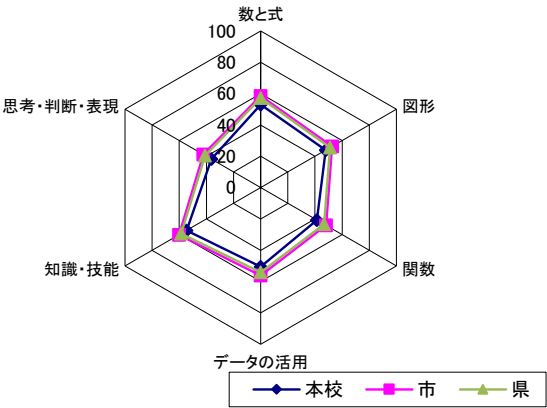


宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.0	58.6	57.2
	図形	47.9	52.6	51.1
	関数	41.4	48.2	46.8
	データの活用	50.5	56.1	54.1
観点	知識・技能	54.6	60.2	58.6
	思考・判断・表現	36.4	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の四則計算や、1次方程式を解くという項目では、正答率が70～80%である。 ●「1次式の減法」「文章から数式を立てる」また、「数式を言語化する」の項目等、文字式を用いて説明する問題の正答率が低い。	・文字式の文字が何を示しているのかを読み取る指導を重視し、文字を使うことの有用性を丁寧に伝える。 ・自分の考えの過程を発表できるような発問をする。
図形	○立体のねじれの位置を問う問題では県の正答率を3.5ポイント上回っている。 ●空間図形、特に円錐とおうぎ形(側面)を扱う問題で県の正答率を下回っている。	・ICT機器を活用して視覚的に訴える。 ・実物を準備するなど教材の工夫をし、実際に目で見て学習することで、理解を深められるようにする。 ・必要に応じて既習事項を確認しながら授業を進める。
関数	○関数である事柄を選択する問題では県の正答率を2.1ポイント上回っている。 ●式からグラフをかくことについて苦手とする生徒が多い。 ●表、式、グラフは表現方法として往来できることが理解できておらず、無回答の割合が30%を超えている。	・式と表、グラフなどを関連させて考えさせる。 ・多角的に問題をとらえ、様々な視点から解決できるようにする。
データの活用	○相対度数の意味や活用方法については県の正答率を3.5ポイント上回っている。 ●度数折れ線から傾向を読み、説明する問題では無回答の割合が30%を超えている。	・数学的に表現された事象について、いろいろな読みとり方があることを理解させる。 ・問題演習を行う際に「なぜ」と疑問をもたせて考えさせるようにする。